

■養成所ニュースプラス第 21 号 2025□■

皆さん、国勢調査の回答は済みましたか。国勢調査は、統計法に基づく「基幹統計」のひとつで、5 年ごとに行われる「全数調査」です。今回は 10 月 8 日を締め切りとしていますが、回答確認ができない場合、調査員が訪問回収します。調査員を装った不審なメールや訪問などに対して注意が必要です。

Plus Quiz は「ソーシャルワークの理論と方法（専門）」から「ソーシャルサポートネットワーク」についての問題です。選ばなかった選択肢のどこを直せば適切になるのかも、併せて考えてみましょう。

■Plus Quiz・・・・・・・・

【35 回問題 110】ソーシャルサポートネットワークに関する次の記述のうち、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

1. 自然発生的なネットワーク内に関与していく場合と、新しいネットワークを形成する場合がある。
2. ソーシャルサポートを提供する組織間のつながりを強めることを第一義的な目的とする。
3. 家族、友人、知人、近隣住民から提供される支援の総体と定義される。
4. インフォーマルなサポートよりも、フォーマルなサービスの機能に着目して活性化を図る。
5. 情報による支援や物的手段による支援からなり、ソーシャルメディアの利用を目的としている。

正答と解説は最後に記載してあります。

■Yoseijo Info・・・・・・・・

- ・(36 期生) 住所変更後、変更届を提出していない場合はご提出ください。
- ・(36-37 期生) 教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）の支給希望の方へ

申請書類一式は原則として、再発行はできませんので、お取り扱いにはご注意ください。

本養成所からの申請書類発行のため、「受給資格者証と公的身分証明書のコピーの提出」及び「レポートの提出」「スクーリングへの出席」「授業料の納入」が必須となります。

※本養成所受講認定基準を満たす支給希望者には、10 月末日付けで、支給申請書類一式を発送いたします。

お手元への到着は 11 月上旬頃の予定です。今しばらくお待ちください。

- ・受講の手引の表紙裏（表紙の次のページ）に“レポート作成・提出チェックリスト”があります。
レポートの作成・提出の前に必ず確認してください。

■Test Info・・・・・・・・

国家試験に関する情報をお届けします

- ・第 38 回国家試験は、令和 8 年 2 月 1 日（日）です。
詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1593226&c=3246&d=99c7>
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟主催の全国統一模擬試験のご案内です。
詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1593227&c=3246&d=99c7>

※申し込み受付期間は終了しています。

・本養成所では、受験対策講座の一環として「受験対策のポイントを中心とするガイダンス」を web にて公開しています。

また、新たに保護観察官による「更生保護出張講座」を公開しました。

アクセスするための URL やパスワード等のお知らせは、養成所ニュースプラス第 6 号配信時に PDF データを添付しておりますので、確認のうえぜひ受講してください。

URL はこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1593228&c=3246&d=99c7>

■Plus Info・・・・・・・・

その他の情報をお届けします

・日本知的障害者福祉協会では様々な情報を発信しております。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1593229&c=3246&d=99c7>

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1593230&c=3246&d=99c7>

■Plus Column

【受験対策ミニ講座 15 回／インプットとアウトプット】

記憶で重要な働きをする「海馬」は情報を 1 か月かけて整理して、何が本当に必要な情報なのか選んでいるのだそうです。そのため、1 か月以内に復習すれば、海馬が「これは大事な情報だ」と勘違いして捨てないというのです。

脳の機能には入力と出力がありますが、脳がどちらを重視しているかという圧倒的に「出力」なのだそうです。例えば、「タウンゼントの相対的剥奪」と何度もキーワードを入力するのではなく、問題を解いたり説明して出力を繰り返すことで、海馬が「この情報はこれほど使用する機会が多いのか、ならば覚えなければ」と判断するというのです。

中央法規の「合格応援プラン」や「国試ナビ SP」の「過去問を解く→解説を読み込む→翌日、前日の問題をもう一度解く→週末にもう一度問題を解く」という勉強法は、脳の構造からも理にかなっているようです。他にも、隙間時間にパラパラと受験対策本を眺めたり、移動中にアプリの穴埋め問題をやったり、職場の休憩時間に一問一答問題をやったり、家事の合間にワークブックのアンダーライン部分に目を通したり、ご自身にあった取り組み方を見つけてください。知識を出し入れすることで、「たまたま」から「確実」に正解できるようになれば、更に得点を積み上げられます。

中央法規「合格応援プラン」のスケジュールで進めている方は、今週でソーシャルワーク科目が終わりますね。この 14 週間、業務と縁遠い科目や学生時代からの苦手科目もあったと思います。お疲れ様でした。来週からは、専門科目の攻略期のスタートです。

今回は、今後、養成所が提供する受験ツールについてお伝えします。

【Plus Quiz 正答と解説】

「社会福祉士国家試験の今後の在り方」には、「理解力・解釈力・判断力を問うことができる事例問題による出題を充実させることが望ましい。」とあります。37 回国家試験では事例問題が大幅に増え、ソーシャルワークの理論と方法（専門）でも、9 問中 7 問が事例問題でした。今回の問題のように知識を想起するだけでなく、事例から判断するような傾向が続くと思われます。とはいえ、キーワードの理解は基本です。今回は、連携・協働に欠かせないネットワーキングについて取り上げました。

社会専門テキスト 6 にもある、リップナックとスタンプが提唱した、リンクを示す「ネットワーク」とプロセスを示す「ネットワーキング」の定義について、その違いを正しく理解してほしいと思います。

ソーシャルサポートネットワークは、フォーマル・インフォーマルの協働によるネットワークを意味します。複雑化する個人の生活課題には、フォーマルネットワークのみでもインフォーマルネットワークのみでも対応することは難しく、総合的なソーシャルサポートネットワークが求められます。ソーシャルサポートには情緒的、道具的（手段的）、情動的、評価的サポートがあげられ、自然発生的なネットワーク内に介入する場合と新たなネットワークを作る場合があります。

また、カーンとアントヌッチは、個人を取り巻くフォーマルとインフォーマルネットワークの協働に加え、個人のライフコースの変化に寄り添う「コンボイモデル」を提唱しました。

1. ○家族関係や近隣住民との関係等、自然発生的なネットワークに関与する場合だけでなく、必要なネットワークが存在しない場合は新たにネットワークを形成することがあります。
2. ×ソーシャルサポートネットワークの第一義的な目的は、地域で生活できるようクライアントの問題解決や問題発生の予防をすることです。
3. ×ソーシャルサポートネットワークにはインフォーマルサポート（家族、友人、知人、近隣住民等）だけでなくフォ

ーマルサポート（公的機関や様々な専門職等）も含まれます。

4. ×インフォーマルなサポートとフォーマルなサポートのそれぞれが協働してソーシャルサポートネットワークの活性化を図る必要があります。

5. ×ソーシャルメディアは、支援方法の一つの手段ですが、目的ではありません。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus